

外国語活動指導案

指導者 前田 健一 (HRT)

松久保 友里 (JHET : 高石中学校)

1、日時 平成25年 11月27日(水) 第5時間目 (13:35~14:20)

2、場所 高石市立東羽衣小学校 5年2組教室

3、学年 第5学年2組(36名)

4、単元名 What's this? (これはなんでしょう)

5、単元目標

- ・ある物について積極的にそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。
- ・ある物が何かと尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
- ・日本語と英語の共通点や相違点から、言葉の面白さに気付く。

6、指導に際して

(児童観)

本学級の児童は4年生までの外国語活動は、ALT と共に行うものの各学年で年間3回程度であった。今年度からは文科省の教育課程特例校となり、全学年が毎週あるいは隔週で外国語活動を行っている。子どもたちは、いつも楽しそうに取り組んでおり、活動中に与えられた課題についてはしっかりとやり遂げることができる。しかし、自分の意見をいうことには、恥ずかしさや自信のなさから消極的になる児童が多いように思う。そのため、外国語活動を通して英語に慣れ親しむと共に、積極的に自分の意見が言えるようにしたい。

(教材観)

本単元は、What's this? (これはなんでしょう) と聞き、クイズ感覚で楽しく取り組める単元である。シルエットクイズ、漢字クイズ、スリーヒントクイズ、パズルクイズなどを行うことによって、英語を楽しく学習し、ゲームの中で積極性を培うようにしたい。

また、本時では友だちに英語でヒントを与えられるよう既習したたくさんの語彙を活用し、自信を持たせたい。

(指導観)

本校では、今年度から全学年で取り組む外国語を校内研修の軸にし、6学年通じて外国語活動に取り組む際の本校のスタンダード的な授業を提案できればよいと考える。

7、単元の評価基準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現への慣れ 親しみ（伝える）	外国語表現への慣れ 親しみ（わかる）	言語や文化に関する 気付き
友だちと積極的にコ ミュニケーションを 図っている。	“What’s this?” “It’s ().”という 表現を使って、友だち に尋ねたり、答えたり している。	/	日本語と英語の共通 点や相違点から、言葉 の面白さに気付く。

8、指導計画（計5時間）

第1時 クイズを通して、楽しみながら言葉に触れ、その面白さに気づく。

Activity : シルエットクイズ

第2時 1つのものに対して3つのヒントを出せるように言葉に広がりをもたせ、野菜や果物など、分類の語に慣れ親しむ。

a、an の学習。

Activity : ポインティングゲーム

第3時 1つのものに対してさらにたくさんのヒントを出せるように言葉に広がりをもたせ、野菜や果物など、分類の語に慣れ親しむ。

Activity : 3ヒントクイズ、パズルクイズ、漢字クイズ

第4時 相手が自分のカードを当てられるようにしっかりとヒントを出す。言いたい言葉を英語で言う。

Activity : 3ヒントクイズ、What’s this?ゲーム

第5時 相手が自分のカードを当てられるようにしっかりとヒントを出す。言（本時）いたい言葉を英語で言う。

Activity : What’s this?ゲーム、私はだあれクイズ

9、本時について

(1) 本時の目標

- ・ある物について積極的にそれが何かと尋ねたり、相手にヒントを出したり、また、答えたりしようとする。

(2) 本時の評価規準

- ・クイズやヒントを出し合いながら友だちと積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
- ・友だちに尋ねたり、答えたりしようとしている。

10、本時の指導計画

過程 (分)	児童の活動	HRT の活動	JHET の活動	指導上の留意点
あいさつ (2)	あいさつをする。	全体にあいさつをする。 “Good afternoon.” “Let’s start our English lesson.”		元気よくあいさつを交わし、授業の始まりを意識できるようにする。
歌 (3)	“Colors”を歌う。	児童とともに歌う。	児童とともに歌う。	歌で楽しませながら、既習の言葉を復習させる。
前時の復習 (5)	前時の復習や本時で使う言葉やフレーズをフラッシュカードで練習する。	子どもたちと一緒に発音する。	カードをもって発音練習させる。	児童が安心して声を出せるような場をつくる。
めあての表示 (2)	めあてを読む。	黒板にめあてを掲示する。 「ある物について積極的にそれが何かとたずねたり、答えたりしようとする」		共通のねらいをもって活動に入れるようにする。

<p>ゲーム1 (8)</p>	<p>What's this? ゲーム 黒板にはられたカードを子どもたちのヒントから1人が当てる。</p>	<p>ゲームの進行を行う。</p>	<p>ヒントの出し方が適切だったか、どんなヒントが言えるかなどアドバイスをする。</p>	<p>次のゲームがつながっていくように英語のフレーズやヒントの出し方に慣れ親しませる。</p>
<p>ゲーム2 「わたしはだあれゲーム」 (24)</p>	<p>ペアになり、片方が頭に絵をつけ、もう片方にヒントを出してもらうことでカードがなにかを当てるゲーム。 “What's this?” と言って、ヒントを聞く。英語のヒントを手がかりに答えを推測する。答えがわかったら、 “I got it. It's” 正解なら “That's right.” ペアを交代して行なっていく。</p>	<p>デモンストレーションをする。 ヒントを出しにくい児童、ヒントがわかりにくい児童に机間支援をする。 ◎児童の様子を評価する。</p>	<p>デモンストレーションをする。 ヒントを出しにくい児童、ヒントがわかりにくい児童に机間支援をする。</p>	<p>交代のときに、振り返りを行い、みんなで共有できるようにする。 ◎【行動観察】 ・友だちと積極的にコミュニケーションを図っている。 ・友だちに尋ねたり、答えたりして、英語に慣れ親しもうとしている。</p>
<p>あいさつ (1)</p>	<p>“Goodbye, teacher.”</p>	<p>“Goodbye, everyone.”</p>	<p>“Goodbye, everyone.”</p>	

ご高評価欄